

第21回 日本社会福祉学会フォーラム 「社会福祉学が切り拓く普遍性の探究」 —人びとの切実な声に応えるために—

1 趣旨

日本にも世界にも支援を求める切実な声がある。例えば、ガザ地区では、75年にも及ぶ理不尽（不正義）な状況のなか、社会福祉が大切にしている自由、尊厳、そして、多くの“いのち”が奪われている。また、東北の地においては、長く様々な災害等により人々が苦しい日々を送ってきた歴史がある。そして、今年の能登半島地震においても、厳しい現実がある。ここには、「明日を待つことができない」という声もある。

では、どうすれば、これらの切実な声に、国境、無関心、忘却などに抗して応えることができるのか、言い換えれば、普遍的に応えることができるか。この問いに対して本フォーラムでは、欠乏と恐怖からの解放といった意味における「平和」、時空を超えた広がりをもつ宗教が見出した「愛」や「慈悲」、そして、自然な人間性の発露が、「普遍性」へと社会福祉を切り拓くと考え、基調講演講師、シンポジストを招く。

基調講演では、パレスチナやアフガニスタンにおける非人道的状況を自らの目で確認し、現地や日本において平和的生存権の観点から様々な活動をされている憲法学者から、「遠くにいるウクライナ、ガザの人たちの声に、社会福祉そして社会福祉学はどのような態度を取るのか」といった問題提起がなされる。これを受けシンポジウムでは、まず、平和とソーシャルワークの関係性という観点から、次いで、キリスト教における「隣人愛」という観点から応答がなされる。さらには、災害福祉の観点からは、身近でありながらも忘却されることで、聴き取られなくなっている切実な声があることが指摘される。

現代は、経済-政治-科学技術を一体と考え、そこから生まれるリスクへの対処を考えなければならない時代である。東北は、放射性物質漏れを含む被災そして「恐怖」を経験した。いま、ウクライナやガザでは科学技術が生み出す兵器によって「恐怖」に晒され、多くの命が奪われている。現代的リスクを経験したこの東北の地で、社会福祉を普遍的なものへと切り拓いていく「社会福祉学の責任」について考えたい。

2 主催

一般社団法人日本社会福祉学会

一般社団法人日本社会福祉学会・東北地域ブロック

3 後援（予定：順不同）

日本学術会議、宮城県、仙台市、宮城県社会福祉協議会、仙台市社会福祉協議会、宮城県社会福祉士会、宮城県精神保健福祉士会、宮城県医療ソーシャルワーカー協会、宮城県介護福祉士会、宮城県保育協議会、宮城県ケアマネジャー協会

4 日時

2024年12月14日(土)

5 会場

東北福祉大学仙台駅東口キャンパス（Zoom とのハイフレックス開催）
（〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡 2-5-26）

6 対象

一般社団法人日本社会福祉学会会員及び会員以外の方でテーマに関心のある方

7 参加費

無料

8 プログラム

12:00 受付

13:00 開会 総合司会 元村智明（東北福祉大学 准教授）

会長挨拶 和気純子（東京都立大学 教授）

13:10～14:10 基調講演（60分）

清末愛砂（室蘭工業大学大学院 教授）

14:10～14:20 休憩（10分）

14:20～16:50 シンポジウム（150分）

眞砂照美（佛教大学 教授）

都築光一（東北福祉大学 教授）

滝口 真（大分大学 准教授）

コメンテーター 清末愛砂（室蘭工業大学大学院 教授）

コーディネーター 中村 剛（関西福祉大学 教授）

16:50 閉会挨拶 中村 剛（関西福祉大学 教授）

17:00 終了

*プログラムの進行上、時間が多少ずれる場合もあります。

9 申し込み方法

Web フォームにて事前参加申込を受け付けます。

詳細は、学会 HP をご確認ください。



10 問い合わせ先

フォーラム運営開催地事務局（主お問い合わせ先）

日本社会福祉学会東北ブロック事務局 担当：渡邊

〒984-0075 宮城県仙台市若林区清水小路 3-1（東北学院大学情報学部内）

E-mail e239911007@g.tohoku-gakuin.ac.jp

日本社会福祉学会大会ヘルプデスク（フォーラム）

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター（(株)国際文献社内）

FAX 03-5227-8632

E-mail jssw-forum@conf.bunken.co.jp